

# マイクロフォン—雑感—

「新青年」一九二五年一二月

国枝史郎

青空文庫



「新青年」はすべからく「探偵小説新青年」と斯<sup>こ</sup>う改題する必要がある。

×

川田功氏の「砲弾を潜りて」は、日本のあらゆる戦争文学の中、第一位に置かる可<sup>べ</sup>き名作であった。「尼港の怪婦人」に至つては、遺憾ながら稍<sup>やや</sup>落ちる。

×

小酒井不木氏は「手術」を書いて、素人の域から飛躍した。しかし「遺伝」に至つては、学者の余技たる欠点を、露骨に現わしたものである。「犯罪文学研究」は、西洋物ほどには精彩がない。

×

近代文学とは如何<sup>いか</sup>なるものか？ 反逆性ある文学である。日本の探偵小説家に、反骨の無いのはウンザリものである。

×

トリック、トリック！ 解剖、解剖！ これだけでは近代の探偵小説とは云えない。

×

所謂<sup>いわゆる</sup>刑事上の罪人なるものを、真の罪人と思い込んでいるのが、探偵小説家の悪い癖である。

×

ウエルシーニンの「死の爆弾」を、喝采謳歌しないような、探偵小説家はヤクザである。さすがに前田河広一郎氏は、ウエルシーニンを認めていた。

×

内容を変えることが出来なかつたら、せめて型でも破つてくれ。日本の探偵小説家よ。

×

活動写真の筋書のような、「近頃読んだもの」は無くもがなである。

×

モーリス・ルブランはお喋<sup>しゃべ</sup>舌りに過ぎ、ビーストンは高踏的、チエスタートンは固い道化で、ドイルは既に古くなった。

×

手淫芸術、幫間芸術、日本の探偵小説家は、その製造に忙しそうだ。

×

純芸術と称せられるもの、大方無気力の書齋芸術である。本当の巷芸術は、謂う所の大衆文芸である。そうして探偵小説は大衆文芸の一分派である。

×

大衆文芸の大衆の意義は？ 大は大勢の大であり、衆は民衆の衆である。そうして民衆とは第四階級の謂だ。果然大衆文芸とは大勢の第四階級の文芸ということになる。だが日本の探偵小説家で、ここ迄考えているものが果して幾人あるだろう？



# 青空文庫情報

底本：「国枝史郎探偵小説全集 全一卷」作品社

2005（平成17）年9月15日第1刷発行

底本の親本：「新青年」

1925（大正14）年12月

初出：「新青年」

1925（大正14）年12月

入力：門田裕志

校正：Julki

2014年4月10日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

# マイクロフォン—雑感—

「新青年」一九二五年一二月

2020年 7月18日 初版

## 奥 付

発行 青空文庫

著者 国枝史郎

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail [info@aozora.gr.jp](mailto:info@aozora.gr.jp)

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>  
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。  
<http://tokimi.sylphid.jp/>